

2023年11月10日

各位

株式会社安評センター

(開示事項の経過)当社とアンジェス株式会社との
共同研究開発の進捗に関するお知らせ
～トランスジェニックゼブラフィッシュモデル(TGZF)完成～

当社とアンジェス株式会社（代表取締役社長 山田 英、大阪府茨木市、以下、アンジェス）との間ですすめている薬剤スクリーニングを目的としたトランスジェニックゼブラフィッシュ*モデル（以下、TGZF）の共同研究開発（2022年11月10日付リリース『当社とアンジェス株式会社との共同研究開発に関するお知らせ』以下、本共同開発）の進捗状況について、下記のとおりお知らせいたします。

【TGZFの開発の状況と見通し】

本共同開発が目標とするNF- κ BデコイオリゴDNAを評価するためのTGZFモデル開発については、2023年3月にベクターが挿入されたTGZF（F0世代）を取得し、その後、交配、選別等を実施してまいりましたが、この度、開発目標であったTGZFモデルが完成いたしました。今後、当社において、当該TGZFモデルが薬剤スクリーニングとして活用可能かの検証を経て、当該TGZFモデルを用いた創薬スクリーニングサービスを広く展開する予定です。

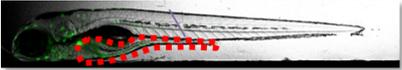
◆ご参考

※1 ゼブラフィッシュ

ゼブラフィッシュは、ヒトとゼブラフィッシュ間の疾患ゲノム類似性は約80%などの特徴がありヒトへの外挿性が高く、スクリーニングが簡便なこともあり需要が高まっています。また、安評センタージェノミクス事業部の専門領域であるトランスジェニック（遺伝子改変）技術を応用したトランスジェニックゼブラフィッシュの開発や幅広いヒト疾患モデルなどの開発が進み、2021年度129億円（1USD=144JPY）から2028年には334億円に拡大すると予想されています（Global Information “ゼブラフィッシュの世界市場（2022年）”引用）。

以 上

◆概要

研究開発内容・目的	開発進捗状況															
<p>BSRC BioSafety Research Center</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)安評センターは炎症性刺激によるGFP発現及び薬剤に対する反応性の確認が可能なTGZFモデルを開発 <p>刺激剤を卵黄嚢注射後24時間のGFP発現誘導</p>  <p>AnGes</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)アンジェスは炎症に関連する種々のタイプの薬剤を用いてTGZFモデルの有用性を検証 	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="841 383 903 427">No</th> <th data-bbox="903 383 1273 427">開発工程</th> <th data-bbox="1273 383 1396 427">進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="841 427 903 517">(1)</td> <td data-bbox="903 427 1273 517">GFPレポータープラスミド及びTransposase発現ベクターの作製</td> <td data-bbox="1273 427 1396 517"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="841 517 903 562">(2)</td> <td data-bbox="903 517 1273 562">TGZFモデルの作製 (F2)</td> <td data-bbox="1273 517 1396 562"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="841 562 903 607">(3)</td> <td data-bbox="903 562 1273 607">TGZFモデルの検証</td> <td data-bbox="1273 562 1396 607"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="841 607 903 674">(4)</td> <td data-bbox="903 607 1273 674">各種薬剤への反応性の確認</td> <td data-bbox="1273 607 1396 674"></td> </tr> </tbody> </table>	No	開発工程	進捗	(1)	GFPレポータープラスミド及びTransposase発現ベクターの作製		(2)	TGZFモデルの作製 (F2)		(3)	TGZFモデルの検証		(4)	各種薬剤への反応性の確認	
No	開発工程	進捗														
(1)	GFPレポータープラスミド及びTransposase発現ベクターの作製															
(2)	TGZFモデルの作製 (F2)															
(3)	TGZFモデルの検証															
(4)	各種薬剤への反応性の確認															
<p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">TGZFを用いた 薬剤スクリーニングサービスの開始</p>																